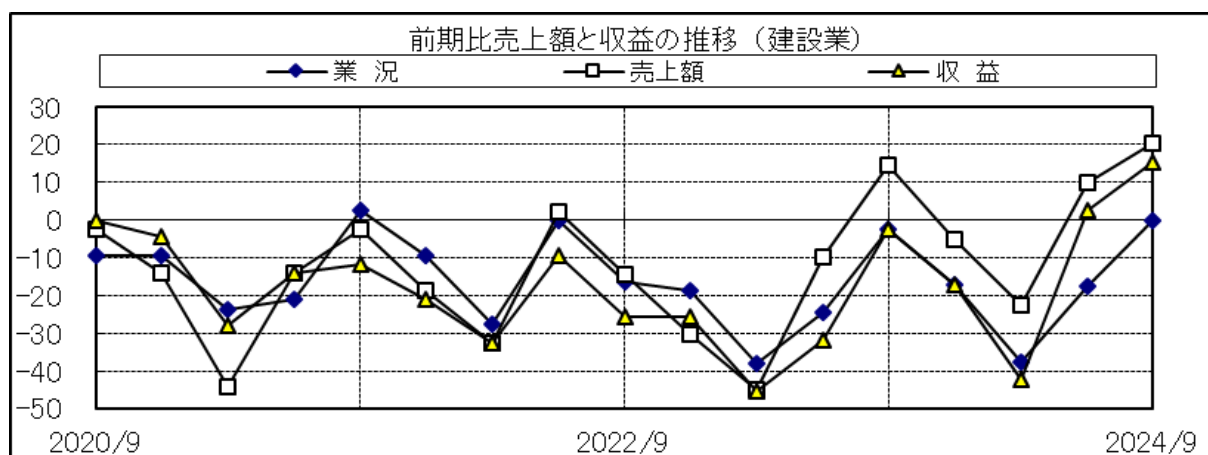


建設業 40 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-37.5	-17.5	0.0	-5.2
売上額	-22.5	10.0	20.5	-5.1
収 益	-42.5	2.5	15.4	-5.2

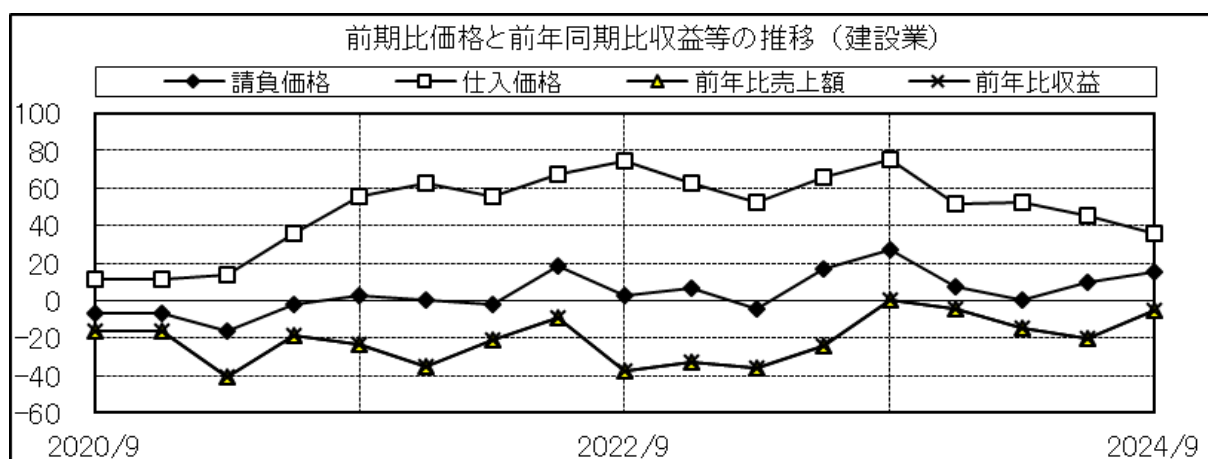
今期の業況判断 D. I. は 0.0 で、前期比 17.5 ポイント上昇、前年(△2.5)比で 2.5 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、えりもが最も高く、次に三石、静内、浦河・類似が同率で続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、20.5 で、前期比 10.5 ポイント上昇。収益判断 D. I. は 15.4 で、前期比 12.9 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
請負価格	0.0	10.0	15.4	10.2
仕入価格	52.5	45.0	35.9	20.5

請負価格判断 D. I. は 15.4 で、前期比 5.4 ポイント上昇、前年(26.8)比では 11.4 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 35.9 で、前期比 9.1 ポイント下降、前年(75.6)比では 39.7 ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-2.5	-15.0	-7.7	0.0
人手状況	-35.0	-47.5	-33.4	-35.9

残業時間判断 D. I. は△7.7 で、前期比 7.3 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△33.4 で、前期比 14.1 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

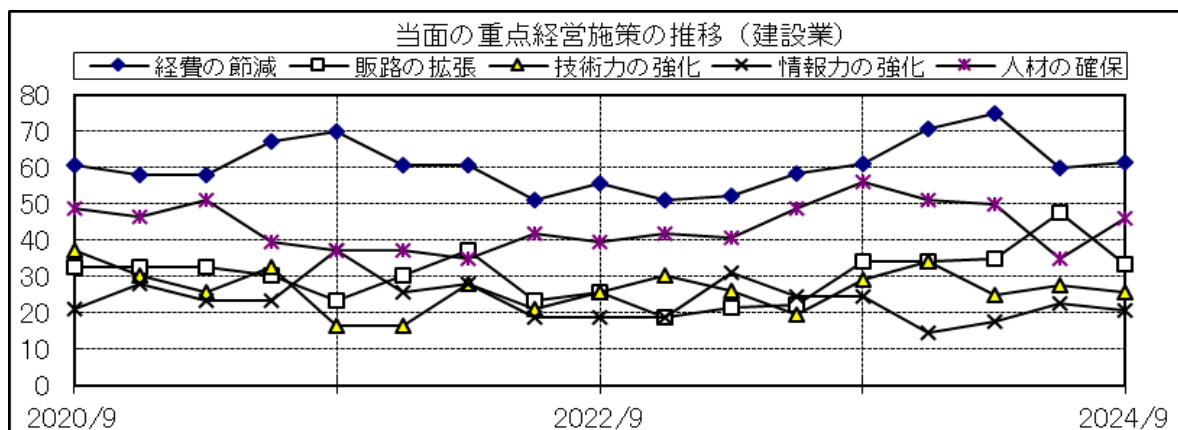
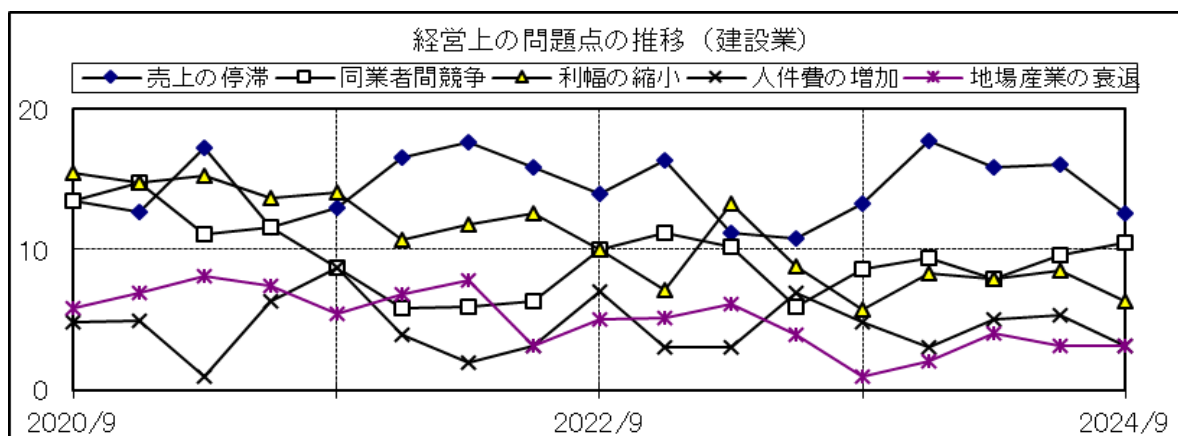
設備投資の充足感を示すD. I. は△5.1で、前期(△5.0)比0.1ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は2.6で、前期(12.5)比9.9ポイント下降した。設備投資は、前期5社に対し、1社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「人手不足」が22.1%と最も多く、次に「材料価格上昇」18.9%、「売上停滞減少」12.6%、「同業者競合」10.5%、「天候不順」8.4%、「利幅縮小」6.3%、「下請確保難」5.3%、「大手企業競合」・「人件費増加」・「地場産業衰退」が3.2%、「資材置場確保難」・「諸経費増加」・「技術力不足」が2.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が61.5%と最も多く、次に「人材確保」46.2%、「販路拡大」33.3%、「技術力強化」25.6%、「情報力強化」20.5%、「労働条件改善」7.7%、「新工法導入」5.1%、「教育訓練強化」2.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△5.2と、今期比5.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△5.1と、今期比25.6ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△5.2と、今期比20.6ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D. I. は10.2と、今期比5.2ポイントの下降を見通している。

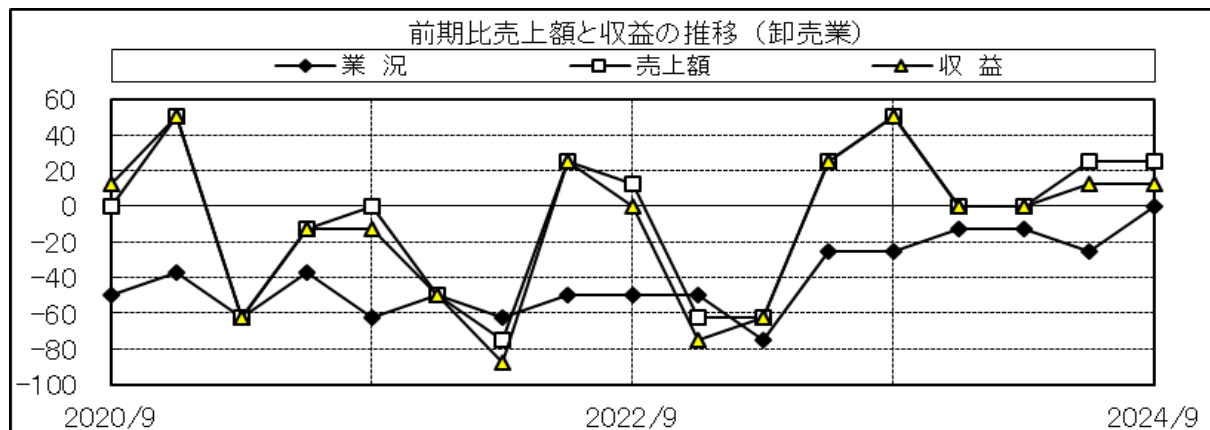
予想仕入価格判断D. I. は20.5と、今期比15.4ポイントの下降を見通している。

卸 売 業 8 企 業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-50.0	-25.0	0.0	0.0
売上額	-37.5	25.0	25.0	25.0
収 益	-37.5	12.5	12.5	12.5

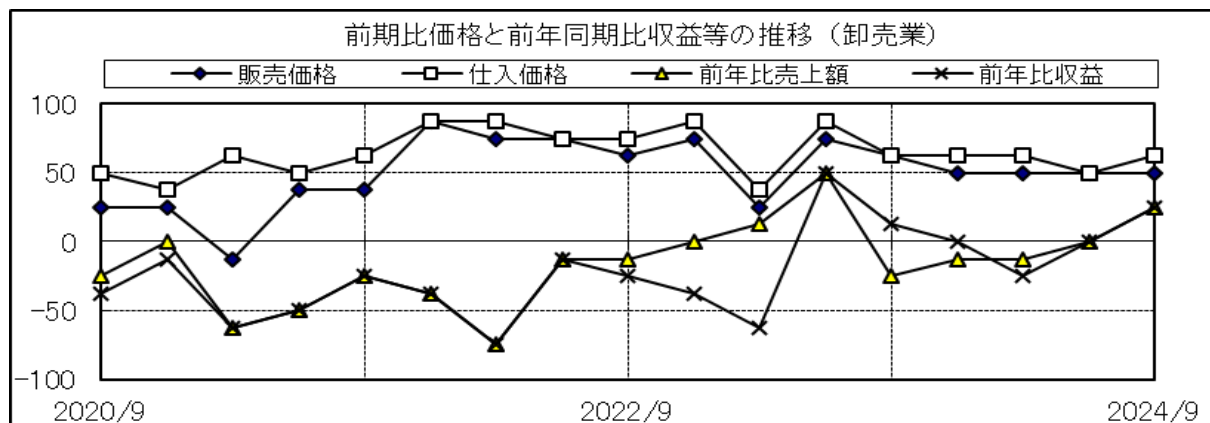
今期の業況判断 D. I. は 0.0 で、前期比 25.0 ポイント上昇。前年(△25.0)比 25.0 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は、浦河地区は上昇、静内・様似地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は 25.0 で、前期と同水準となった。収益判断 D. I. は 12.5 で、前期と同水準となった。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
販売価格	37.5	50.0	50.0	62.5
仕入価格	50.0	50.0	62.5	87.5

販売価格判断 D. I. は 50.0 で、前期と同水準となった。前年(62.5)比 12.5 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 12.5 ポイント上昇し、前年(62.5)と同水準となった。業種別では、水産業は販売、仕入価格ともに横這い、食品業は販売、仕入価格ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	0.0	-12.5	-12.5	12.5
人手状況	0.0	0.0	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は△12.5 で、前期と同水準となりし、残業時間に変動は無かった。人手過不足判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、人手不足感に変動は無かった。

□ 設備投資の動き

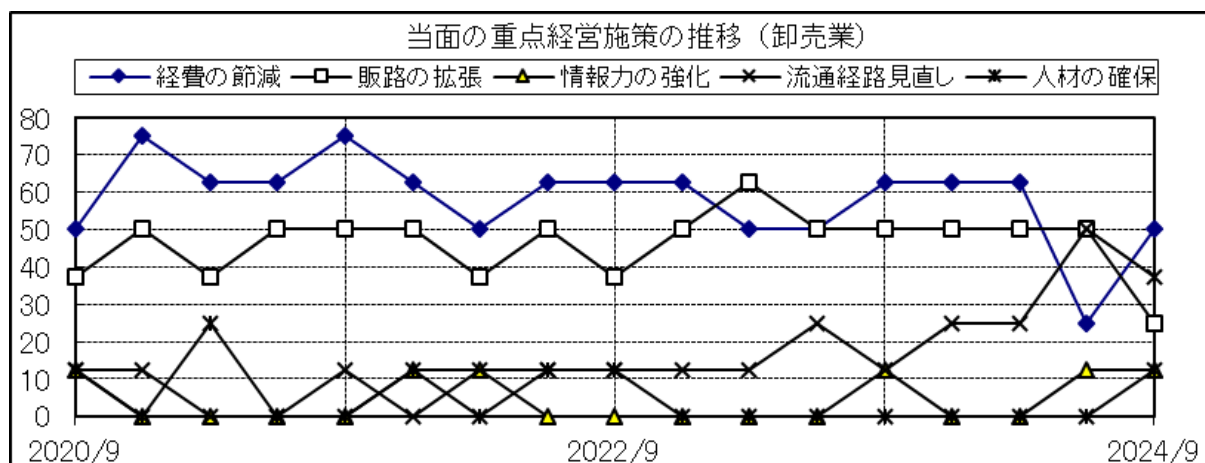
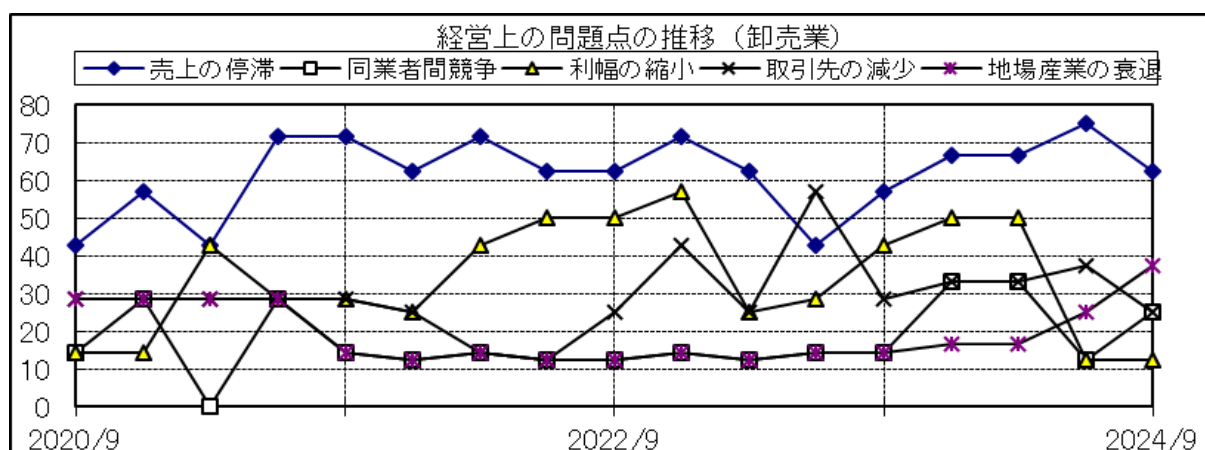
設備投資の充足感を示すD. I. は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。

設備実施企業割合は12.5で、前期(12.5)と同水準となった。設備投資は、前期1社に対し、1社の実施となった。来期の設備投資は1社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が62.5%と最も多く、次に「地場産業衰退」37.5%、「同業者競合」・「人件費増加」・「取引先減少」が25.0%、「利幅縮小」・「値上要請」・「諸経費増加」・「天候不順」が12.5%となっている。

重点経営施策では、「経費削減」が50.0%と最も多く、次に「流通経路見直し」37.5%、「販路拡大」・「提携先開拓」が25.0%、「情報力強化」・「新事業開始」・「機械化促進」・「人材確保」・「不動産有効活用」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は0.0と、今期と同水準を見通している。

予想売上額判断D. I. は25.0と、今期と同水準を見通している。

予想収益判断D. I. は12.5と、今期と同水準を見通している。

予想販売価格判断D. I. は62.5と、今期比12.5ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は87.5と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。